

## 第1章 福山市の概要

### 第1節 位置・交通条件

#### 1 位置

福山市は、瀬戸内海沿岸のほぼ中央にあたり、広島県南東部に位置する中核市です。北は神石高原町、西は府中市、尾道市、南は瀬戸内海を隔てて愛媛県（上島町）、香川県（三豊市、観音寺市）、東は岡山県笠岡市、井原市と接しています。

主要都市との距離は、大阪市まで約240km、山口市まで約240km、広島市まで約100km、岡山市まで約70km、松山市まで約120km、高松市まで約110km、松江市まで約220kmとなっています。

市域は南北45.7km、東西29.5km、面積517.72km<sup>2</sup>（2021年（令和3年）1月1日現在）です。

平野は、一級河川芦田川とその支流の流域を中心に形成され、本市の中心市街地は芦田川の河口付近に広がる福山平野に位置します。市域の南部には瀬戸内海が広がり、仙酔島、田島、横島、走島などが点在し、北部は吉備高原の南西端部の丘陵地・山地などによって構成されています。

また、江戸時代に同じ福山藩であった笠岡市、井原市と歴史・文化・経済的に強い結び付きがあります。

こうしたことを背景に、福山市、三原市、尾道市、府中市、竹原市※<sup>1</sup>、世羅町、神石高原町、笠岡市、井原市は、連携して備後圏域全体の経済成長を牽引し、住民が安心して豊かな暮らしを営むことができる連携中枢都市圏の形成のため、2015年（平成27年）3月、本市を連携中枢都市とする備後圏域連携中枢都市圏形成に係る連携協約を締結しました。



図1-1  
福山市の位置

※1 竹原市

2024年（令和6年）4月に加盟



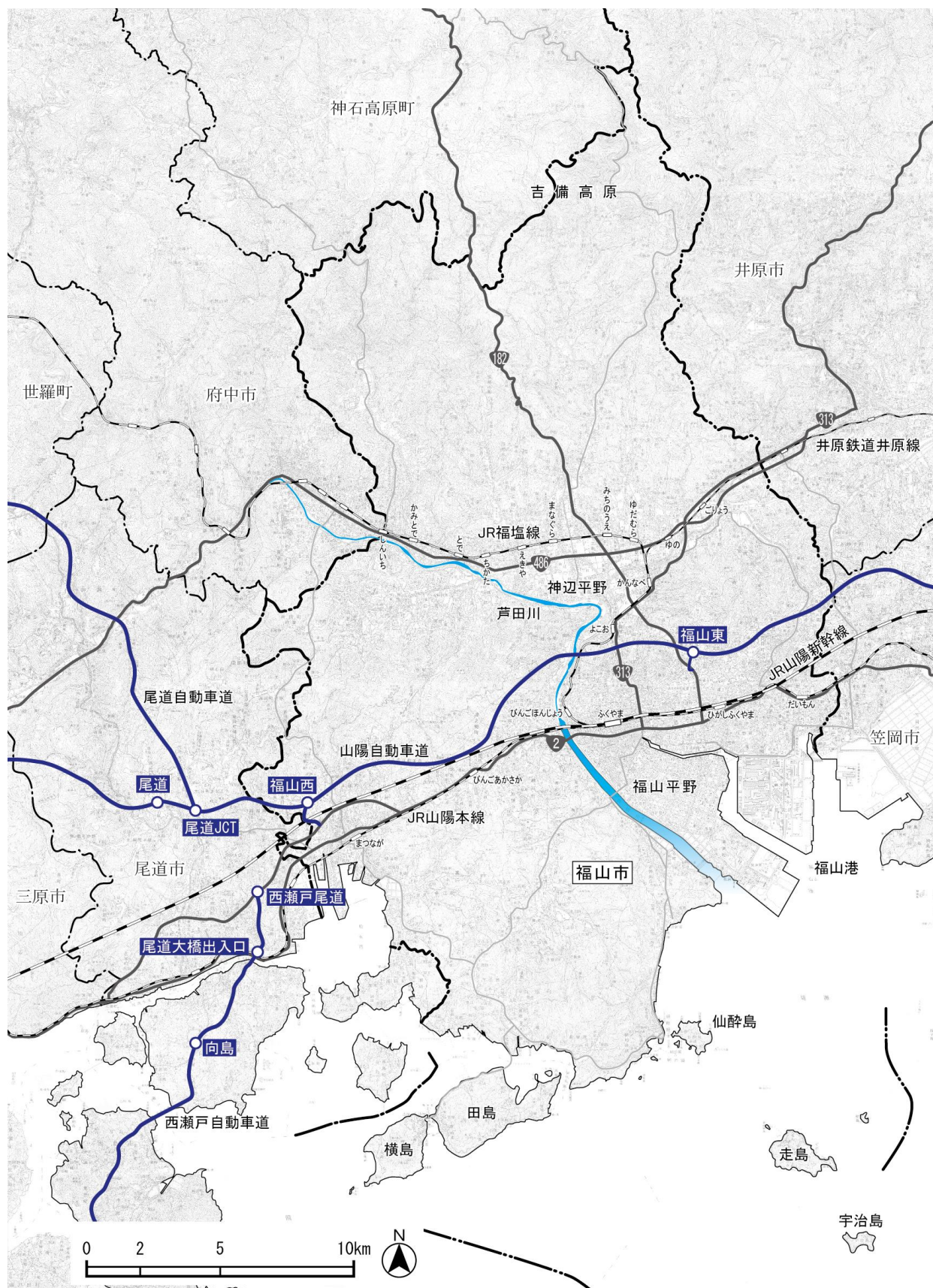


図 1-2 福山市の交通条件

## 2 交通条件

福山市の交通条件は、自動車で三原市の広島空港へ約 45 分、岡山市の岡山空港へ約 50 分と両空港を利用でき、国内や海外の主要都市へのアクセスが便利な環境にあります。また、高速道路としては、瀬戸内海沿岸を通り大阪市から北九州市を結ぶ国道 2 号と平行して山陽自動車道が整備されているほか、四国方面へは西瀬戸自動車道（しまなみ海道）が整備されており、中国・四国地方の交通結節点として利便性が高いといえます。

2015 年(平成 27 年) 3 月には、山陽と山陰を結ぶ中国横断自動車道尾道松江線（やまなみ街道）が全線開通し、中国・四国地方の大半が 3 時間圏域に入るなど、交流拠点性が高まっています。

鉄道網については、臨海部の東西を結ぶ J R 山陽新幹線、J R 山陽本線があり、福山駅からは芦田川沿いを北上する J R 福塩線、神辺駅からは井原市や総社市方面を結ぶ第三セクターの井原鉄道があります。

バス路線は交通事業者 4 社により市内の各所及び市外とつなわれ、乗り合いタクシーも運営されています。

加えて、重要港湾である福山港があり、箕島地区・箕沖地区・鞆地区の 3 地区に分かれています。これらのうち鞆地区には、走島フェリー及び仙酔島への旅客船が運航されています。また、尾道から鞆港への旅客船も運航されています。なお、箕島地区・箕沖地区には国際港湾施設が立地し、中国地方の港湾輸出入額では水島港（岡山県）に次ぐ規模となっています。





※図中の中国バス、鞍鉄道、北振バス、井笠バスカンパニーは「路線バス」を示す  
 ※「タクシー」は記載を省略している

出典：福山・笠岡地域公共交通網形成計画 2017年(平成29年)3月

図 1-3 対象地域の公共交通体系

## 第2節 自然環境

### 1 地形

福山市の北部、西部及び南部には 400～500m級の山々が連なり、主な山としては、標高 611.2mの京ノ上山、545.8mの蛇円山などがあります。その山系を縫って北西から南に貫流する一級河川芦田川とその支流の流域を中心に神辺平野と福山平野が広がっています。また、市域の南部には瀬戸内海が広がり、点在する仙酔島、田島、横島、走島などの島々によって伸びやかな海域景観が形成され、その景観は景勝地となっています。

主な河川としては、芦田川水系、高梁川水系、藤井川水系、本郷川水系及び羽原川水系の河川が流れています。このうち最大河川である芦田川は、三原市大和町に源を発し、流路延長 86km、流域面積 860km<sup>2</sup>で上水道用水、工業用水及び農業用水などに利用されています。

※図 1-4 を参照

### 2 地質

福山市の地質<sup>※1</sup>は、大きくは平野部の堆積岩（砂岩、粘板岩等）とその他（干拓地、埋立地、盛土）、山地部と丘陵部の多くを占める火成岩（花崗岩）などから構成されています。

また、山地部と丘陵部では隆起したことを示す古生代ペルム紀等の堆積岩もみられ、南西部の沼隈半島では付加体<sup>※2</sup>も、その区域の半分程度を占めています。

こうした中で、矢川のクリッペ、上原谷石灰岩巨大礫、仙酔島の海食洞、仙酔層と岩脈、福山衝上断層（奈良津・蔵王城山露頭）の 5 件が、広島県指定の天然記念物となっています。

※図 1-5 を参照



上原谷石灰岩巨大礫（山野町）



福山衝上断層 蔵王城山露頭（蔵王町）

---

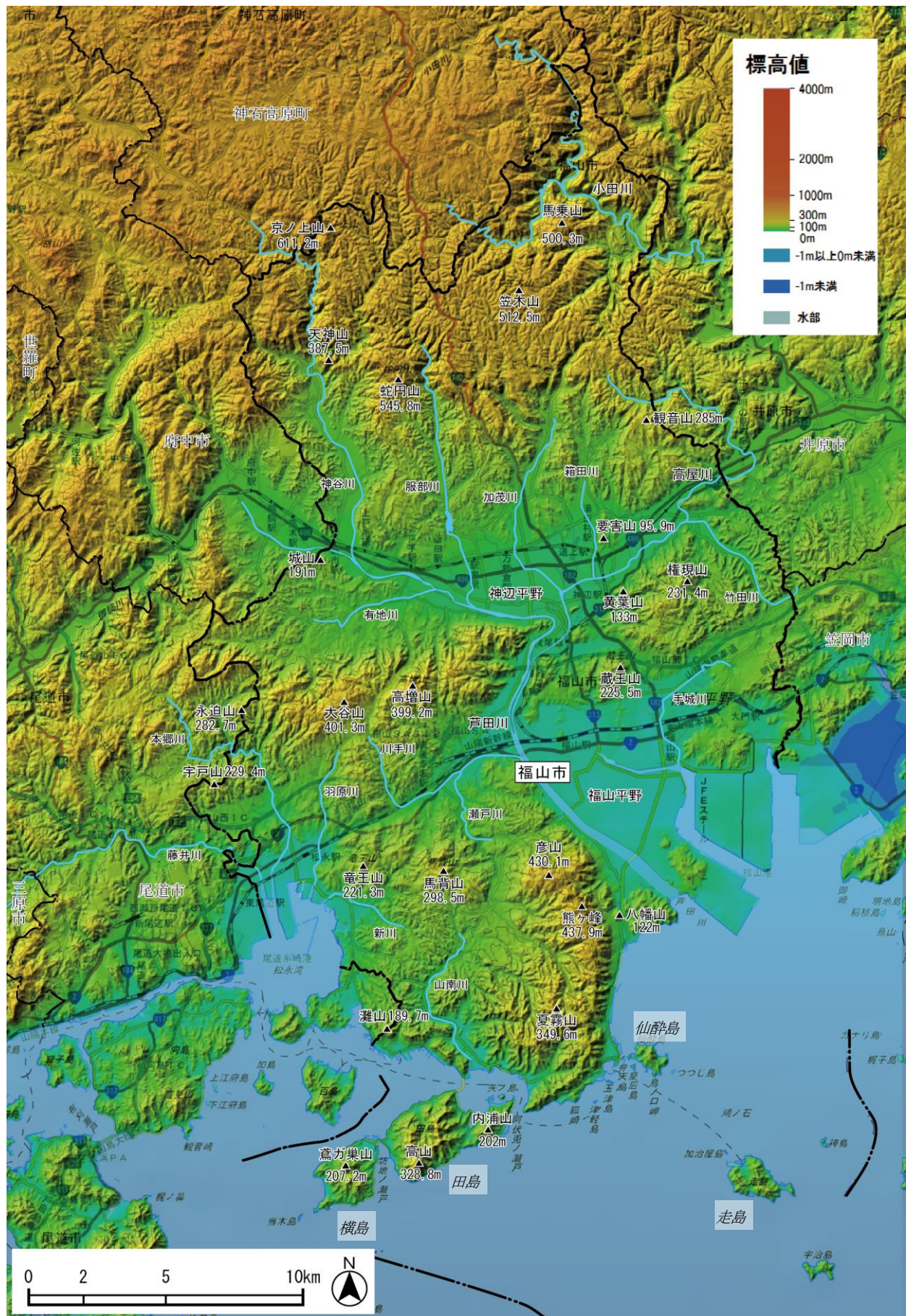
#### ※1 地質

地質とは、表層の軟らかい地層より深い岩盤・地層、山岳地等の露出した岩盤・岩石の性質・状態などを指す。

#### ※2 付加体

海洋プレートが海溝で大陸プレートの下に沈み込む際に、海洋プレートの上の堆積物がはぎ取られ、陸側に付加したものの。





※国土交通省国土地理院「電子国土web (2023. 1. 6 時点)」をベースに加工・編集

図 1-4 福山市の地形





### 3 植生

福山市の植生は、平地部等の市街地と農耕地を除くと、その多くは二次林で占められており、山地部・丘陵部の一部では二次草原、北部の一部では自然林もみられます。また、芦田川河川敷には自然度の高い草原が確認できます。

重要な植生としては、アオイカズラ、シロヤマブキ等の貴重な植物が生育する山野峡の峡谷植生、原生林若しくはそれに近い自然林を構成する藤尾峡谷の峡谷植生、千田町のオニバス群落、松永湾の塩生植物群落、当木島・釜戸岬の海岸林（環境省により特定植物群落に指定）、重要な巨樹・巨木林として賀茂神社のケヤキなどがあります。また、福泉寺のカヤや箕島のラカンマキなどが広島県又は福山市天然記念物（植物）に指定され、市街化区域とその周辺では良好な緑の環境を確保し美観風致を維持するため、福山市みどりのまちづくり条例に基づき樹木49本、樹林5箇所が保護樹木・樹林に指定されています。

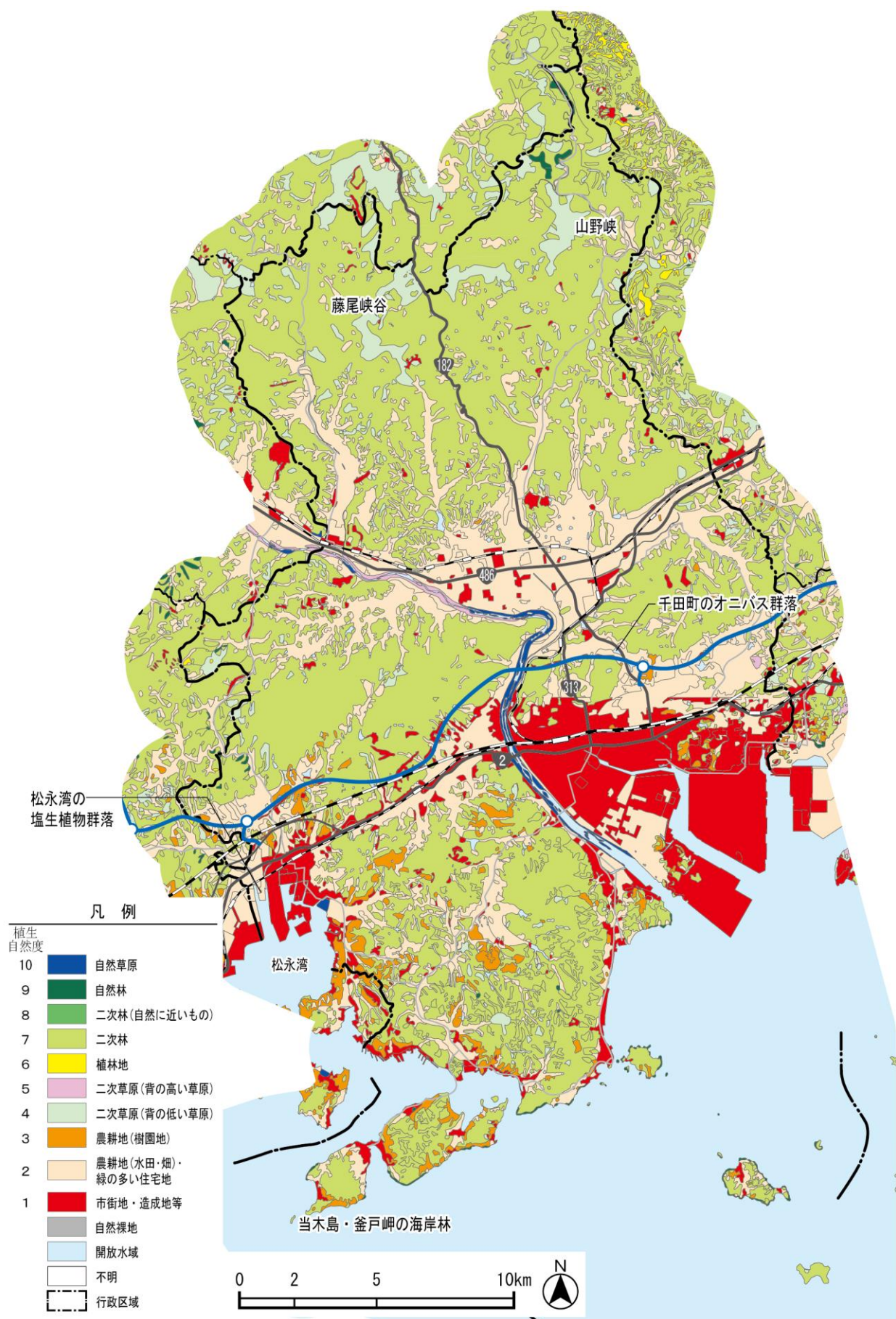


福泉寺のカヤ（県天然記念物）



箕島のラカンマキ（県天然記念物）



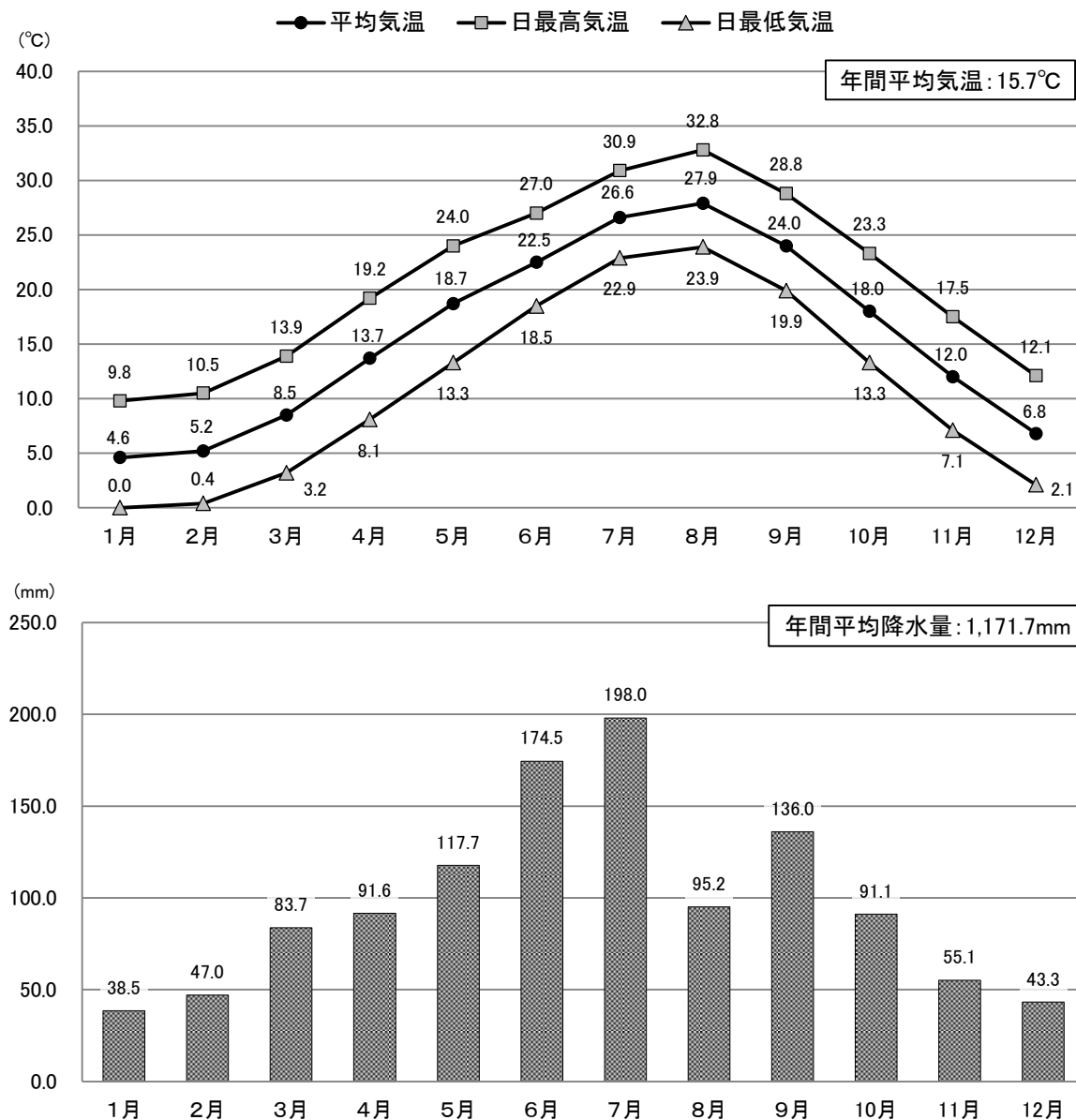


※環境省の生物多様性情報システム「1/5万現存植生図(第2～5回調査)」をベースに加筆、修正

図1-6 福山市の植生自然度

## 4 気候

福山市は典型的な瀬戸内海式気候であり、温暖で比較的雨が少ない気候となっており、年間平均気温は15℃～16℃、年間平均降水量は1,200 mm前後となっています。市域内では地域による気温差が大きく、南部での積雪は希ですが、北部では積雪があります。



資料：気象庁HP（福山）

※30年間の平均（1991年～2020年）

図1-7 福山市の気候



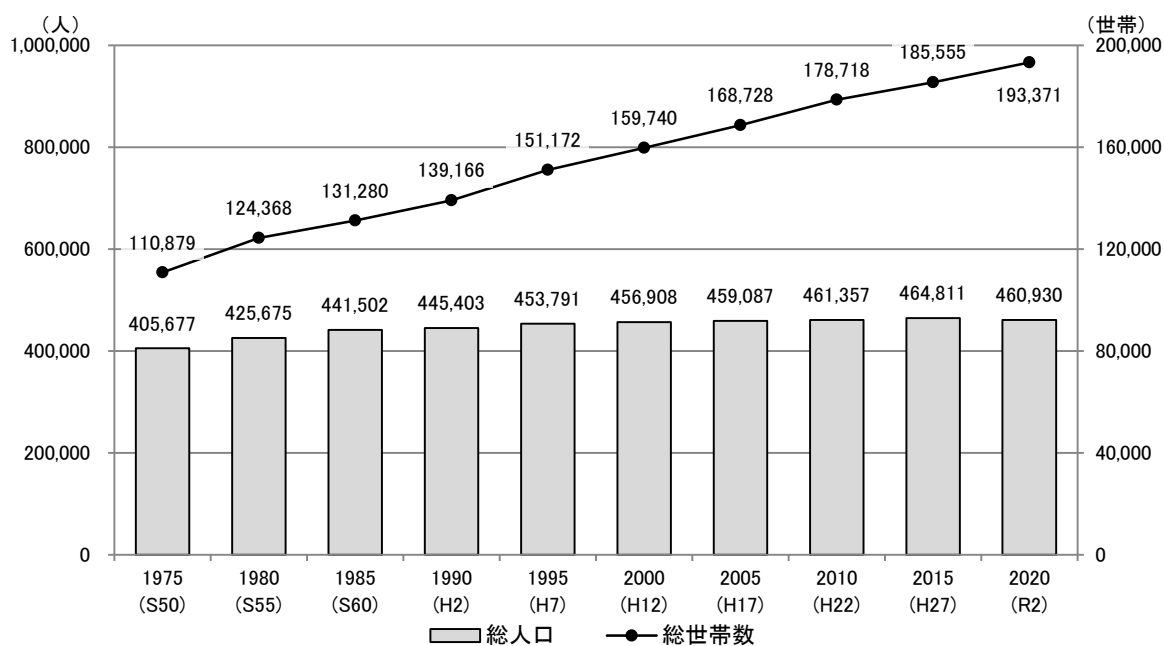
### 第3節 社会環境

#### 1 人口

##### (1) 人口の推移

福山市の人口は、2020年（令和2年）の国勢調査で460,930人であり、1940年（昭和15年）以来の減少となりました。また、住民基本台帳における人口は、2024年（令和6年）2月末で457,797人となり、46万人を割り込む状況となっています。

世帯数は一貫して増加していますが、近年は人口が停滞していることから、1世帯当たり人員は減少しています。



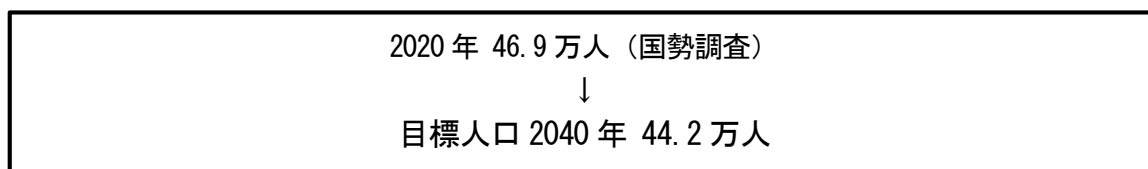
資料：総務省「国勢調査」

図1-8 福山市の人口・世帯数の推移

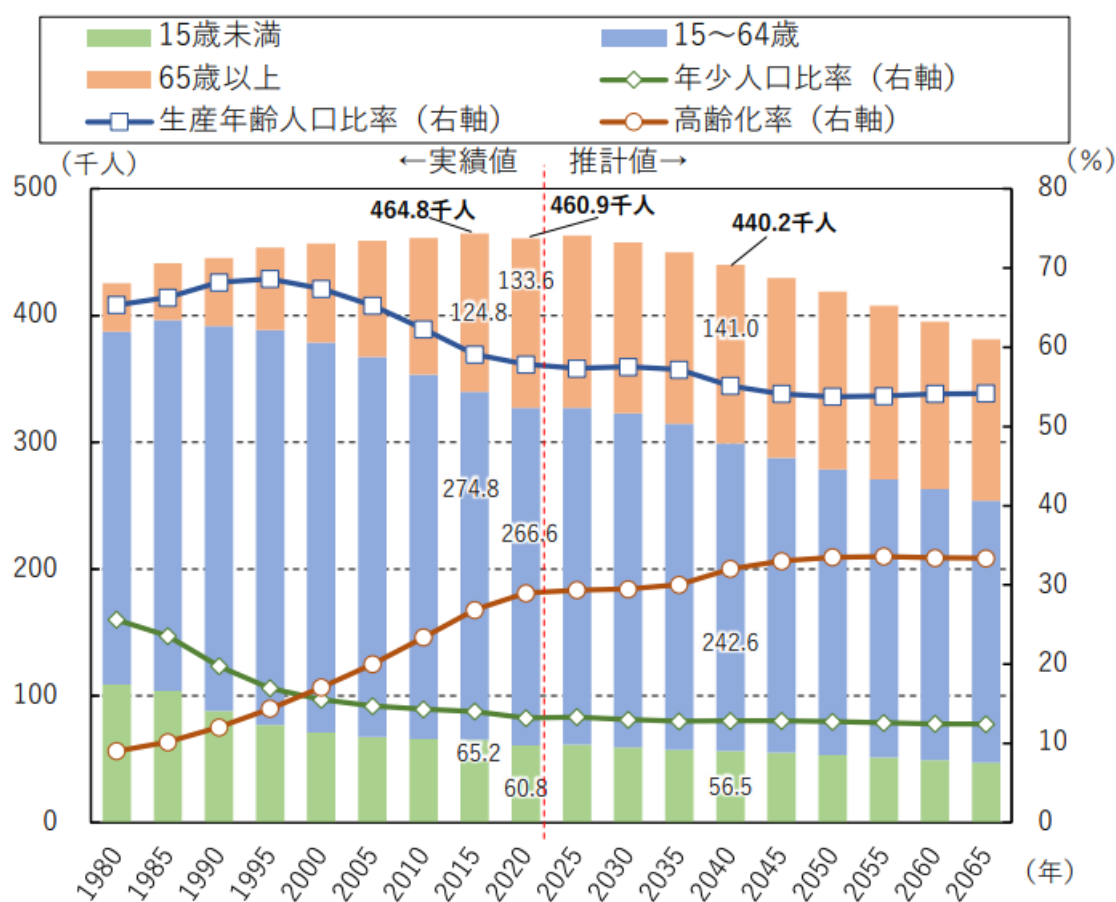
## (2) 目標人口

福山市の人口推計は、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」といいます。）の推計で設定された移動率、死亡率（生残率）を用い、出生率の現状値が 2040 年に市民希望出生率の 1.90 まで上昇し、それ以降はこの水準を維持すると設定して推計しています。

2040 年の目標人口は 44.2 万人としています。



### 【福山市の将来人口推計グラフ（年齢3区分別）（外国人を含む）】



資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成30（2018）年推計）  
 ※2020年までは国勢調査の実績値（年齢3区分人口は年齢不詳を按分した数値）、2025年以降は推計値

資料：福山みらい創造ビジョン人口減少対策アクションプラン 2023

図 1-9 福山市の将来人口推計



## 2 産業

福山市の産業を就業者数（国勢調査）からみると、2020 年(令和 2 年)において第 1 次産業が 3,059 人（全体の 1.4%）、第 2 次産業が 64,490 人（同 30.4%）、第 3 次産業が 136,438 人（同 64.3%）となり、第 2 次産業、第 3 次産業が中心となっています。

就業者数の推移（2015 年(平成 27 年)～2020 年(令和 2 年)）をみると、5 年間で 1,312 人、率にして 0.6%とわずかながら減少しています。なお、各産業で一律に減少しているのではなく、第 1 次及び第 2 次産業では減少し、第 3 次産業は増加となっています。

表 1-2 福山市の産業別就業者数

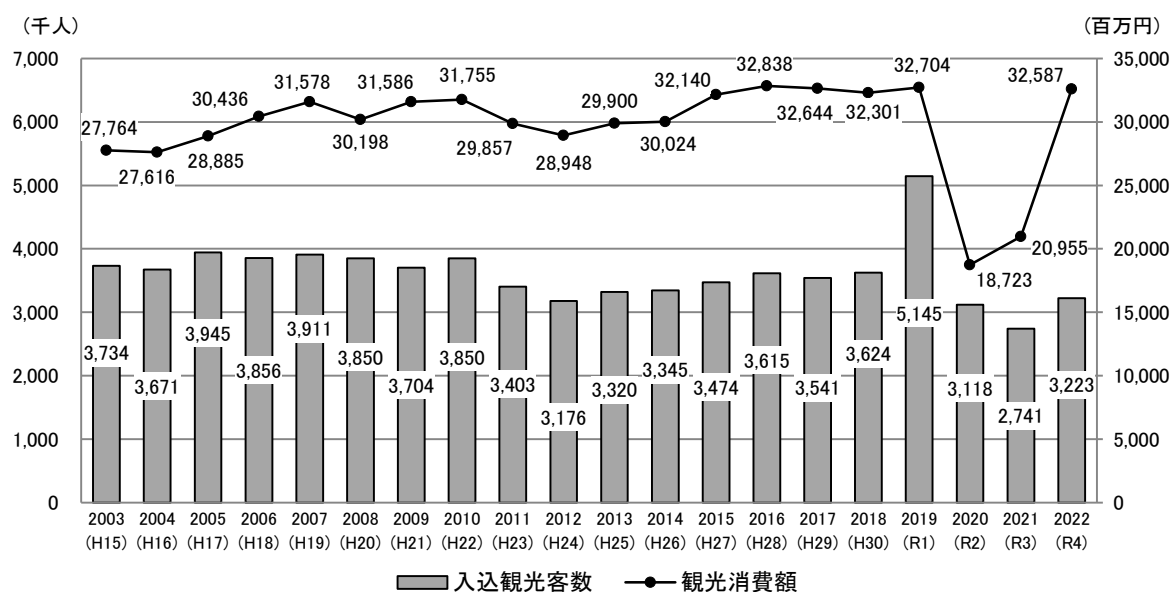
| 産業分類    |                     | 2015 年(平成 27 年) |        |         |        | 2020 年(令和 2 年) |        |         |        |
|---------|---------------------|-----------------|--------|---------|--------|----------------|--------|---------|--------|
|         |                     | 就業者数(人)         | 構成比(%) | 合計(人)   | 構成比(%) | 就業者数(人)        | 構成比(%) | 合計(人)   | 構成比(%) |
| 第 1 次産業 | A 農業、林業             | 3,137           | 1.5    | 3,365   | 1.6    | 2,894          | 1.4    | 3,059   | 1.4    |
|         | (うち農業)              | 3,075           |        |         |        | 2,833          |        |         |        |
|         | B 漁業                | 228             | 0.1    |         |        | 165            | 0.1    |         |        |
| 第 2 次産業 | C 鉱業、採石業、砂利採取業      | 39              | 0.0    | 66,376  | 31.1   | 29             | 0.0    | 64,490  | 30.4   |
|         | D 建設業               | 16,736          | 7.8    |         |        | 16,906         | 8.0    |         |        |
|         | E 製造業               | 49,601          | 23.2   |         |        | 47,555         | 22.4   |         |        |
| 第 3 次産業 | F 電気・ガス・熱供給・水道業     | 833             | 0.4    | 134,117 | 62.8   | 719            | 0.3    | 136,438 | 64.3   |
|         | G 情報通信業             | 2,108           | 1.0    |         |        | 2,052          | 1.0    |         |        |
|         | H 運輸業、郵便業           | 11,905          | 5.6    |         |        | 12,146         | 5.7    |         |        |
|         | I 卸売業、小売業           | 35,327          | 16.6   |         |        | 34,894         | 16.4   |         |        |
|         | J 金融業、保険業           | 3,827           | 1.8    |         |        | 3,777          | 1.8    |         |        |
|         | K 不動産業、物品賃貸業        | 2,884           | 1.4    |         |        | 3,062          | 1.4    |         |        |
|         | L 学術研究、専門・技術サービス業   | 5,048           | 2.4    |         |        | 5,645          | 2.7    |         |        |
|         | M 宿泊業、飲食サービス業       | 10,308          | 4.8    |         |        | 9,826          | 4.6    |         |        |
|         | N 生活関連サービス業、娯楽業     | 7,328           | 3.4    |         |        | 6,865          | 3.2    |         |        |
|         | O 教育、学習支援業          | 8,660           | 4.1    |         |        | 9,904          | 4.7    |         |        |
|         | P 医療、福祉             | 28,033          | 13.1   |         |        | 29,801         | 14.0   |         |        |
|         | Q 複合サービス事業          | 1,787           | 0.8    |         |        | 1,623          | 0.8    |         |        |
|         | R サービス業(他に分類されないもの) | 11,284          | 5.3    |         |        | 11,590         | 5.5    |         |        |
|         | S 公務(他に分類されるものを除く)  | 4,785           | 2.2    |         |        | 4,534          | 2.1    |         |        |
|         | - T 分類不能の産業         | 9,594           | 4.5    | 9,594   | 4.5    | 8,153          | 3.8    | 8,153   | 3.8    |
| 合計      |                     | 213,452         | 100.0  | 213,452 | 100.0  | 212,140        | 100.0  | 212,140 | 100.0  |

資料：国勢調査

### 3 入込観光客の推移

福山市の入込観光客数を最近 20 年間（2003 年（平成 15 年）以降）でみると、2012 年（平成 24 年）にかけて停滞もしくは減少傾向が続きましたが、その後はやや増加傾向にあり、2019 年（令和元年）には前年より約 152 万多い 515 万人に達しました。しかし、2020 年（令和 2 年）・2021 年（令和 3 年）には新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少しました。2022 年（令和 4 年）にはやや回復しています。

観光消費額については、2007 年（平成 19 年）にかけて増加し、その後は横ばい傾向にありましたが、2020 年（令和 2 年）・2021 年（令和 3 年）と上記同様に新型コロナウイルス感染症の影響を受けています。2022 年（令和 4 年）には大幅に回復しています。



資料：広島県「広島県観光客数の動向」

この調査は、本県の観光客数、観光消費額等の実態を把握し、観光振興施策の立案、実施に当たっての基礎資料とすることを目的として、市町の協力を得て毎年実施しており、市町ごとに観光客数、発地、目的、形態、利用交通機関、外国人観光客数、宿泊客数、観光消費額等について調査したものである。

図 1-10 福山市の入込観光客数及び観光消費額の推移



## 4 博物館・資料館等

### (1) 公共施設

福山市における公立の歴史文化関係の博物館・資料館等は 23 施設あり、そのうち 1 施設は県立、その他の 22 施設は市立です（福山城博物館附属鏡櫓文書館は、福山城博物館に含まれます）。

県または市で運営しているのが広島県立歴史博物館と福山市しんいち歴史民俗博物館、福山市あしな文化財センター、福山市人権平和資料館、福山市生涯学習プラザ歴史資料室、鞆の津の商家、福山市沼隈民俗資料収蔵庫、福山市ぬまくま交流館（山本瀧之助記念室）、福山市うつみ市民交流センター（歴史民俗資料展示室）の 9 施設です。福山市松永はきもの資料館は市と地元団体が協働、福山市鞆町町並み保存拠点施設は市と地元団体、委託業者で運営しています。福山市山野民俗資料収蔵庫、葛原邸、福山市田尻民俗資料収蔵庫は、福山市が地元の団体へ行政財産の使用許可を行い、運営されています。その他、指定管理者制度を利用しているのは 9 施設です。

博物館・資料館等は、8 施設が J R 福山駅周辺にあり、それ以外は神辺町・鞆町、沼隈町に 3 施設、新市町に 2 施設、山野町、田尻町、内海町、松永町にそれぞれ 1 施設が立地しています。

分野別では歴史・民俗関係が 19 施設、美術関係が 2 施設、文学関係が 1 施設、平和関係が 1 施設となっています。

表 1-3 公共の博物館・資料館等

(1/2)

| No. | 施設名                       | 施設設置者 | 運営 | 概 要                                                                            |
|-----|---------------------------|-------|----|--------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | 広島県立歴史博物館                 | 県     | 県  | 中世の港町として知られている草戸千軒町遺跡の調査・研究を行うとともに、当遺跡の町並みを実物大で再現したものや国の重要文化財に指定されている出土品を展示公開。 |
| 2   | 福山市しんいち歴史民俗博物館            | 市     | 市  | 福山市北西部地域の文化財及び「備後緋」の保存と活用に取り組んでいる。                                             |
| 3   | 福山市あしな文化財センター             | 市     | 市  | 福山市北西部地域の埋蔵文化財の調査・研究と収集した文化財の収蔵・展示を行っている。                                      |
| 4   | 福山市人権平和資料館                | 市     | 市  | 福山空襲や戦時下の暮らし、部落の歴史と解放のあゆみ等について展示。                                              |
| 5   | 福山市生涯学習プラザ歴史資料室           | 市     | 市  | 福山市に関する歴史的文書を収集・保存するとともに、調査・研究、展示を行っている。                                       |
| 6   | 鞆の津の商家                    | 市     | 市  | 鞆の典型的な町家として市重要文化財に指定。主屋は江戸時代末期、土蔵は明治時代の建築。内部には当時の商売道具や筆筒などの調度品が展示されている。        |
| 7   | 福山市沼隈民俗資料収蔵庫              | 市     | 市  | 藺草関係の資料をはじめ、沼隈町の生活を物語る民俗資料を収蔵・展示。                                              |
| 8   | 福山市ぬまくま交流館（山本瀧之助記念室）      | 市     | 市  | 郷土沼隈を拠点にその生涯を青年教育に捧げた社会教育家で、青年団活動の創始者の一人である山本瀧之助に関する資料を展示。                     |
| 9   | 福山市うつみ市民交流センター（歴史民俗資料展示室） | 市     | 市  | 船の模型や漁具をはじめ、内海町の歴史民俗資料を展示。                                                     |

表 1-3 公共の博物館・資料館等

(2/2)

| No. | 施設名             | 施設設置者 | 運営                | 概要                                                                                                    |
|-----|-----------------|-------|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10  | 福山市松永はきもの資料館    | 市     | 市<br>地元団体         | 日本はきもの博物館・日本郷土玩具博物館から引き継いだ資料や松永地域の産業を支えた下駄・藺草・塩の生産関連資料を収蔵・展示。                                         |
| 11  | 福山市鞆町町並み保存拠点施設  | 市     | 市<br>地元団体<br>委託業者 | 町並み保存の推進と地域住民と来訪者の交流や観光の周遊拠点となる施設。町並み保存や空き家の利活用に関する相談窓口を備えるとともに、伝統的建造物の修理方法や鞆町の無形民俗文化財、日本遺産などを展示。     |
| 12  | 福山市山野民俗資料収蔵庫    | 市     | 地元団体              | 山樵・養蚕・川漁・運搬等の用具などを含む「山野民俗資料（福山市有形民俗文化財）」を展示。建物は国の登録有形文化財（福山市旧山野村役場）。                                  |
| 13  | 葛原邸             | 市     | 地元団体              | 教育者・童謡作家である葛原しげる及びその祖父で琴の名手であった葛原勾当に関する資料の展示や普及活動に取り組んでいる。                                            |
| 14  | 福山市田尻民俗資料収蔵庫    | 市     | 地元団体              | 内海沿岸の庶民生活史を物語る「田尻民俗資料（広島県有形民俗文化財）」を展示。                                                                |
| 15  | 菅茶山記念館          | 市     | 指定<br>管理者         | 江戸時代後期の菅茶山（儒学者）の漢詩や日本画家の金島桂華・猪原大華などの作品を収蔵・展示。                                                         |
| 16  | 福山市神辺歴史民俗資料館    | 市     | 指定<br>管理者         | 神辺地域の古代から現代に至る文化財・歴史資料を収蔵・展示。                                                                         |
| 17  | 福山城博物館・鏡櫓文書館    | 市     | 指定<br>管理者         | 2022 年（令和 4 年）に迎えた福山城築城 400 年にあわせて大規模リニューアルを実施。福山城と福山藩の歴史に関する資料を収蔵・展示。また、鏡櫓文書館では市内の文書の収蔵・展示・調査を行っている。 |
| 18  | 福山市福寿会館         | 市     | 指定<br>管理者         | 海産物商で財を成した安部和助氏によって昭和初期に建築された建造物群。本館・西茶室・南茶室・西蔵・東蔵・洋館が国の登録有形文化財。貸会議室や貸茶室として使われている。                    |
| 19  | ふくやま美術館         | 市     | 指定<br>管理者         | イタリアを中心とした 20 世紀ヨーロッパの美術、郷土ゆかりの作家の作品、日本の近・現代美術を展示。                                                    |
| 20  | ふくやま書道美術館       | 市     | 指定<br>管理者         | 福山市出身の栗原蘆水の中国や日本の風景を描いた書画、筆墨硯紙などの文房四宝を収蔵・展示。                                                          |
| 21  | ふくやま文学館         | 市     | 指定<br>管理者         | 福山市出身の作家・井伏鱒二を中心に、福原隣太郎、小山祐士、木下夕爾など、郷土ゆかりの文学者の作品や資料を展示。                                               |
| 22  | 福山市鞆の浦歴史民俗資料館   | 市     | 指定<br>管理者         | 鯛網、鍛冶、保命酒、祭りと神事など、鞆を中心とした瀬戸内の歴史文化に関する資料を収蔵・展示。                                                        |
| 23  | 福山市ぬまくま文化館（枝広邸） | 市     | 指定<br>管理者         | 幕末から三代続いた医家、枝広家の邸宅。貸会議室や貸茶室として使われている。                                                                 |

## （２）民間施設

民間の博物館・資料館等としては、歴史・民俗、美術、平和、産業に関する次の 8 施設があります。

### ＜歴史・民俗関係＞

- ・貝原歴史資料館（「カイハラ」の歴史や備後緋の製造技術などに関する展示）
- ・いろは丸展示館（鞆沖で沈んだ「いろは丸」の引き揚げ物、龍馬のかくれ部屋、沈没状況のジオラマ等を展示。江戸期に建てられた「大蔵」と呼ばれている建物の中に展示）
- ・入江保命酒資料館（保命酒の醸造道具や徳利などを展示）

#### ＜美術関係＞

- ・しづや美術館（小林和作の作品（絵画）を中心に、備後にゆかりのある作家の作品を幅広く展示。陶芸教室をはじめ様々な文化教室が開かれている。本館は日本家屋を改修）
- ・国際聚蔵館（日本の伝統工芸品や美術品などを展示する資料館。藍染の資料室など）
- ・中川美術館（中国現代絵画を中心に、中国陶磁器や硯、書などの美術工芸品も展示）

#### ＜平和関係＞

- ・ホロコースト記念館（「ホロコースト」（ナチスによる大虐殺）に関する資料の展示。子どもたちの学びの場）

#### ＜産業関係＞

- ・福山自動車時計博物館（クラシックカーと時計（掛け時計、置き時計）を中心に展示）





図 1-11 福山市の博物館・資料館等の立地状況

## 第4節 歴史的環境

### 1 福山市の歴史概況

#### 【旧石器時代】

旧石器時代は寒冷な気候で瀬戸内海も陸続きでした。福山市域の旧石器時代の遺跡は、北部の神辺平野で確認されています。亀山遺跡（神辺町）では約2万年前のナイフ形石器2点が出土し、宮脇石器時代遺跡（新市町・県史跡）では、細石刃・細石核などの旧石器時代から縄文時代への過渡期を示す遺物が採集されています。ナイフ形石器及び細石刃は槍の先端に装着して狩猟活動に使用するもので、旧石器時代の遺跡は広島県内では主に県北の三次・庄原市域、県中央の東広島市域で遺跡が確認されていますが、福山市域でも旧石器時代に人々が生活を営んでいたことがうかがえます。



図 1-12 旧石器時代・縄文時代の遺跡分布図

出典：福山市史 原始から現代まで 福山市史編さん委員会 2017 年(平成 29 年)

#### 【縄文時代】

縄文時代が始まる頃には寒冷な気候から次第に温暖な気候へと変化し、海面が上昇した結果、瀬戸内海が形成され、内陸部まで海水が入り込んでいたと考えられています。福山湾岸や松永湾岸の沿岸部では縄文時代の遺跡が多く確認されており、当時の海岸線を推測することができます。

福山湾岸では、洗谷貝塚・浜貝塚（水呑町）、大門貝塚（大門町）、木之庄貝塚（木之庄町）などが確認されています。特に注目されるのは、洗谷貝塚の後期の集積遺構から見つかった香川県坂出市金山産サヌカイトで、この石材は船で運ばれ洗谷に一度集積された後、内陸部の御領遺跡などに運ばれたと考えられます。縄文時代に他地域と広域的な交易があったことを示しています。松永湾岸では早期～晩期の貝塚である馬取遺跡（県史跡）、県内唯一の土偶を出土した下迫貝塚（以上柳津町）などが確認されています。

また、同じ内陸部では、宮脇石器時代遺跡（県史跡）・芋平遺跡（新市町）、御領遺跡・大宮遺跡（神辺町）などが確認されています。特に御領遺跡では、後期・晩期の遺物・遺構が調査され、後期の竪穴住居跡から多量の土器・石鏃・スクレイパーが出土しています。

これらの遺跡では、気候の温暖化により豊富となった海や山の幸を漁労・狩猟・採集といった多様な方法で収穫し、次第に人口が増加していったと考えられます。



## 【弥生時代】

弥生時代になると中国大陸や朝鮮半島から北部九州に伝わった水稻耕作文化が日本列島各地へ広がりました。瀬戸内海もその重要な伝播ルートのひとつと考えられ、瀬戸内海沿岸の沖積平野では初期の農耕集落遺跡が多く見つっています。

福山市域では、県内最大の沖積平野である神辺平野で、亀山弥生式遺跡（県史跡）・御領遺跡・大宮遺跡（神辺町）が環濠を持つ前期から中期の拠点集落として確認されています。中期以降には丘陵上にも大規模集落が形成されるようになり、石鎚権現遺跡・手坊谷遺跡（駅家町）、神谷川弥生式遺跡（新市町・県史跡）などが確認されています。

弥生時代には神辺平野の大部分は湿地帯で形成されていました。人々は生活に適した場所を求め、小河川沿いの小高い堤防上や丘陵部で集落を営み、湿地帯を利用して稲作を行いながら生活の場を更に広げていったと考えられます。

また、青銅器の出土が多いことも注目されます。夫婦岩遺跡（沼隈町）からは平形銅剣（県重文）、大迫遺跡（郷分町）からは中細形銅剣（市重文）、ザブ遺跡（津之郷町）、加屋遺跡（赤坂町）、大宮遺跡（神辺町）、井上遺跡（加茂町）、城山A遺跡（新市町）からは銅鏃、津之郷小学校門脇の防火用水の造成中に貨泉（市重文）が見つっています。江戸時代の福山藩儒菅茶山は、神村町でみつかった銅鐸の拓本を残しています。

この中には北部九州や畿内で製作されたと考えられるものや中国由来の貨泉があることに加え、市内の遺跡からは他地域の弥生土器もみつかり、弥生時代には瀬戸内海を介して福山地域と他地域との交流があったことが分かります。

## 【古墳時代】

弥生時代に引き続き、主に神辺平野を中心に遺跡が分布します。主な前期古墳として、三角縁五神四獣鏡と短冊形鉄斧（いずれも県重文）を出土した潮崎山古墳（新市町）、前期の備後南部では最大の前方後円墳（推定 60m）である尾ノ上古墳（加茂町）があります。尾ノ上古墳はその規模と出土遺物から、いち早く畿内政権と結びついた地域の盟主的な首長の墳墓と考えられています。

中期には神辺平野を中心に小規模な古墳の築造が認められ、代表的なものに亀山第1号古墳（神辺町）があります。しかし、神辺平野ではこの他に中期の大型古墳は確認されておらず、吉備中枢部から築造規制を受けていた可能性が指摘されています。

後期になると備後南部にも横穴式石室が出現し、神辺平野では巨石を用いた大型横穴式石室をもつ特徴的な古墳が築造されました。6世紀末～7世紀初頭には西日本最後の前方後円墳と考えられる二子塚古墳（駅家町・国史跡）が築造され、兵庫県産の竜山石製の石棺や双龍環頭柄頭などの遺物から、畿内政権が吉備勢力を牽制するために、再び福山地域の首長と結びつきを強くした結果であると考えられています。畿内政権との結びつきが強くあったことは、二子塚古墳の築造以降も主に畿内に分布する終末期古墳が福山市域で7世紀後半まで築造され続けたことにも現れています。

畿内政権にとって対立する吉備勢力の西に位置する備後地域は、地理的に非常に重要な地域であり、このような特徴的な古墳文化が展開されました。市内の古墳や出土遺物の状況から当初、吉備首長層の支配を受けていた備後南部地域の首長たちは次第に吉備社会から自立していき、畿内政権との結びつきを強めていったことがうかがえます。



## 【飛鳥・奈良・平安時代】

7世紀になると中国の隋・唐に倣って日本でも律令制国家の形成が始まり、吉備勢力の解体はますます進みます。吉備勢力は備前（後に備前国と美作国に分割）・備中・備後国に分割され、現在の福山市域を含む備後国が誕生しました。我が国最初の律・令である大宝律令（大宝元年（701年））が施行されると、地方行政区画として国・郡・里が設置され、福山市域は安那郡・品治郡・沼隈郡・深津郡にまたがっていました。政治の中心となる備後国府は府中市に置かれ、地方統治のため豪族に代わり、国司・郡司が任命され、律令に基づく官僚的な統治機構が整備されました。

奈良時代になると本格的な都である平城京がつくられ、都が置かれた奈良を中心に官道が整備されました。福山市域には都から太宰府を結ぶ大路である古代山陽道と連絡施設として「駅家」が整備されました。備後国では、安那・品治・芦田・者度など計5か所（1駅は名称不明）が置かれ、このうち品治駅は発掘調査によって最明寺跡（駅家町）と推定されています。また、古代山陽道沿いには新羅様式の瓦を伝える中谷廃寺跡（神辺町・市史跡）や備後国分寺跡・小山池廃寺跡（神辺町）、慶徳廃寺跡（新市町）など多くの古代寺院跡が確認されており、仏教文化が早くから伝えられていたことがうかがえます。

平安時代の10世紀には律令制度が次第に崩れ、荘園と呼ばれる貴族や有力社寺の私有地が増加し、独自の経済活動をする者が現れました。また、海上交通の発達に伴って海賊が横行し、取締をするために武装集団が組織されました。その中で平氏が台頭しますが源平合戦に敗れ、源氏を中心とする武士の時代に突入します。瀬戸内海に面した鞆や沼隈町には源平合戦の伝承が今も伝わっています。

古代の瀬戸内海では海上交通が発達し、瀬戸内海の東西の潮流の分岐点に位置する鞆は、潮待ちの港として利用されました。また、福山湾岸には国府津として、津之郷・奈良津・吉津・深津などの多くの港町が形成され、このうち、深津には海蔵寺（史跡宮の前廃寺跡）、津之郷には和光寺（現在の田辺寺）など港のランドマークとなる大寺院が建立されました。

## 【鎌倉・室町時代】

武士の時代である鎌倉時代に入ると、備後国にも守護・地頭が設置されました。備後国守護には鎌倉幕府の有力御家人であった長井氏が任命され、備後南部に広く所領を持っていたと考えられています。

南北朝時代には北朝軍と南朝軍が鞆の小松寺・大可島に拠点を置いて戦いました。また、貞和5年(1349年)には短期間ではありますが、足利尊氏の子の直冬が中国探題として鞆の大可島城（市史跡）に入り、中国地方8か国を統治する拠点にするなど、鞆は軍事上の要衝地となります。なお、当時の守護所は神辺城（神辺町）と推測され、府中の国衙とともに備後地域の二大政治拠点として機能していたと考えられます。

15世紀中頃になると南北朝の内乱が収束することで政治状況が安定し、各国では守護や国人領主が地域支配を強めていきました。備後国には山名氏が守護として配置され、流通経済にも積極的に関わり、港としての尾道・鞆・田島・鞆江などに直属船を停泊させます。

しかし、応仁の乱（応仁元年(1467年)～文明9年(1477年)）で山名氏が分裂したため、備後国は安芸国から勢力を伸ばしてきた毛利氏の領国になりました。天正4年(1576年)には、室町幕府最後の将軍足利義昭が織田信長に京都を追われ毛利氏を頼って鞆に下向します。その後、天正15年(1587年)まで鞆のほか常国寺（熊野町）など備後南東部に滞在しました。

中世の瀬戸内海では、拠点港湾である尾道や鞆を中心に物流のネットワークが構築され、福山湾岸には草戸千軒町遺跡のような地域密着型港湾が成立し、それらが相互に補完し合いながら地域経済を支えていたと考えられます。





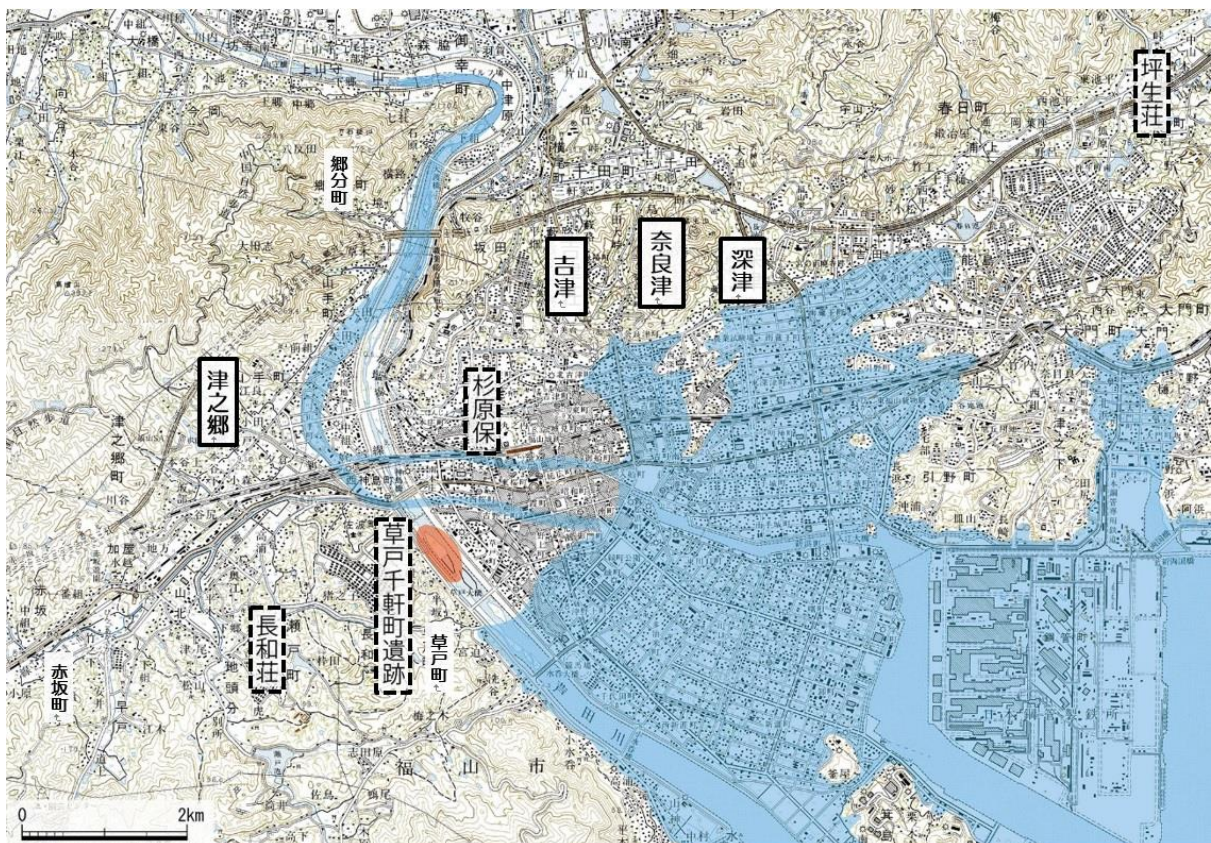


図 1-14 中世福山湾周辺の荘園と港に関する地名（海岸線は推定）

出典：福山市史 原始から現代まで 福山市史編さん委員会 2017 年(平成 29 年)を加筆・編集

## 【安土桃山・江戸時代】

### ◎福山藩の誕生

慶長 5 年(1600 年)、徳川家康が関ヶ原の戦いで天下の実権を握ると、山陰・山陽の 10 か国を領した毛利輝元は、西軍に属したために防長 2 か国に移封され、安芸国・備後国は福島正則の支配となりました。元和 9 年(1619 年)に福島正則が改易になると、初代福山藩主である水野勝成が備後 10 万石の領主として入封しました。

勝成は入封後、当時、瀬戸内海の浅瀬に面していた半島の常興寺山を城地と定め、福山城の築城と城下町の建設に着手し、当地を「福山」と命名しました。徳川譜代である勝成は西日本にひしめく外様大名を牽制する西国鎮衛の大役を果たすため、山陽道などの幹線陸路と拠点港輻がある海路を抑えることができる常興寺山を城地として選定しました。

勝成は城下町の建設とともに藩内の村づくりにも力を注ぎ、河川改修や農業用の溜め池・溝の整備、干拓による新開地の造成、近世山陽道と脇街道の整備などを積極的に推進しました。

また、産業の奨励にも努め、松永塩田の開発、干拓地での綿作、輻の鉄製品、備後表などの特産品も増産がなされました。加えて、戦国時代に荒廃した社寺を再興するなど、領民の信仰政策にも力を注ぎました。

### ◎激動の阿部時代

元禄 11 年(1698 年)、水野家が 5 代で断絶すると、幕府領、松平家の支配を経て、宝永 7 年(1710 年)に阿部家が入封します。18 世紀は百姓一揆や芦田川の氾濫、大旱魃などの自然災害が多発した苦難の時代でしたが、困難を乗り越えるために民間の活力や優秀な人材を登用し、同時に種々の技術の向上を促しました。また、そうした流れの中で人材育成の重要性が認識され、藩士のみならず庶民も教育を受けられるようになりました。天明 6 年(1786 年)



には藩校弘道館が開設され、藩内には庶民向けの寺子屋もつくられました。また、神辺宿で生まれた菅茶山は寛政4年(1792年)頃に私塾「閭塾<sup>りょじゅく</sup>（後の廉塾）」を開き、身分に関係なく教育を行い、当時の社会秩序の回復をめざしました。茶山は当世随一の漢詩人と評され、全国から多くの文人墨客が訪れています。

19世紀には城下町や鞆の豪商だけでなく、領内の豪農も経済力をつけ大地主となる者も現れ、民間活力による社会インフラの整備が行われました。鞆の港湾施設の整備や義倉の設立は豪農商の発案により推し進められました。こうした人々は学問や俳諧・狂歌、茶道、生花、能などの文化の担い手となり、次第に庶民にも広がりを見せました。

天保7年(1836年)に18歳で阿部正弘が第7代藩主となり、25歳で幕府の老中首座になります。外国からの開国要求という未曾有の危機を経験し、人材の重要性を実感した正弘は、家柄や慣習に捉われず人材を登用しました。また、その人柄は「春風のように爽やかな人」と言われ、人望も厚く、幕府や藩の枠を超えて日本の進む道を考えていました。

また、福山藩主としても、藩校の弘道館を廃して、洋学中心の誠之館に切り替えて人材育成を心がけました。誠之館では藩士子弟だけでなく庶民の聴講も可能とし、身分ではなく能力主義による人材の育成に努めました。

幕末には徳川譜代の福山藩は尊皇派から朝敵とみなされ、長州軍が大砲を城内に撃ち込むなど戦争になるところでしたが、関藤藤陰などの尽力により城の無血開城を果たしました。また、戊辰戦争では譜代でありながら新政府軍として旧幕府軍と戦いました。

## 【近・現代】

### ◎変わる地方制度と市制施行

慶応3年(1867年)10月、徳川幕府は大政奉還を行い、約270年間続いた幕藩政治が終わり、天皇を中心とした明治新政府による新しい時代を迎えました。明治4年(1871年)7月、廃藩置県により福山藩は福山県となり、その後、深津県、小田県、岡山県と短期間で県名が目まぐるしく変わり、1876年(明治9年)4月に現在の広島県となりました。この間、政治的な中心は岡山に移り、商業の面では尾道が繁栄しました。福山の城下町としての栄光は過去のものとなり、町は廃れていくばかりでした。

1889年(明治22年)4月1日には市町村制が施行され、備後地域では2町73村(2町は福山町、鞆町)が誕生し、近代的な行政組織がスタートしました。1916年(大正5年)には市制施行により県下4番目の都市として福山市が誕生し、周辺町村との合併を繰り返しながら市域を拡大していきました。

### ◎再び備後の中心都市へ

1891年(明治24年)の山陽鉄道の開通を契機に福山は再び活況を呈するようになります。1913年(大正2年)に鞆軽便鉄道(福山－鞆間)、1914年(大正3年)には両備軽便鉄道(福山－府中間)が開通し、福山駅を起点とした東西南北の交通網が整備され、福山は備後一帯の生産物の集散地となり、備後経済圏の形成に大きく貢献しました。

なお、1908年(明治41年)7月には、広島から歩兵第四十一連隊が福山に移転し、軍都としての一面をもつようになり、軍関連施設の建設や連隊への物資供給が経済発展の大きな一因となりました。

また、近代産業の始まりは製糸業と綿紡績業と言われますが、備後地域においても1886年(明治19年)福山製糸会社の設立を嚆矢に次々と製糸・紡績会社が設立され、工業都市化の第一歩を踏み出しました。このような近代産業のほかには備後緋、畳表、下駄、塩業など、

江戸時代からの地場産業も発達しました。

### ◎戦時下の福山

相次ぐ戦争は軍都福山にも確実にその影響を与えました。全国的に軍需へ資源・労働力が投入される中、各産業の軍需生産への転換が進められました。その結果、軍関係の施設が集中することになった福山市は、1945 年(昭和 20 年) 8 月 8 日の夜、米軍 B29 による大空襲を受けました。大量の焼夷弾により市街地の 8 割が焼け、多くの犠牲者を出し、その被害は甚大なものでした。

### ◎戦災復興と高度経済成長

福山市は全国に先駆けて戦災復興計画を策定し、新たな都市づくりをめざしました。戦災復興事業で駅前大通りをはじめとする近代的な市街地が形成された一方で城下町特有の街路を消滅させ、都市景観と都市構造を大きく変えました。産業は、軍需から民需への転換が行われ、被害の少なかった周辺部では織物や藁製品などの地場産業が生産を伸ばしました。また、1949 年(昭和 24 年)には市営競馬が開始され、当時は収益金の一部が毎年市の一般会計に繰り入れされました。昭和 31 年代初頭には戦後の荒廃した雰囲気のを和らげるために市民が花園町の南公園(現在のばら公園)にばらを植え、ばらのまちづくりが始まりました。

1950 年代の高度経済成長期に入ると地場産業の発展とともに、1961 年(昭和 36 年)には日本鋼管(株)(現 J F E スチール(株)西日本製鉄所福山地区)の誘致に成功し、全国有数の工業都市となりました。また、このような変化に対応するために広域的な開発が必要となり、行政を再編するとともに合併により市域を拡大していきました。

### ◎高度経済成長の終焉と新たなまちづくり

1974 年(昭和 49 年)の石油ショックを契機として高度経済成長が終わりを告げ、1990 年代のバブル崩壊後には低成長の時代に入りました。この時期には、急速な工業開発と都市化による公害問題や産業構造の変化など様々な問題が表面化しました。地場産業の繊維業、畳表、下駄は 1970 年代前後から次第に縮小し、製鉄業は粗鋼生産量の調整が続き、地域経済に大きな影響を与えました。このような状況を踏まえ、福山市は 1979 年(昭和 54 年)に策定された第一次福山市総合計画で「人間環境都市の創造」を目標に掲げ、社会資本整備や産業開発に加えて、社会福祉、まちづくり、コミュニティづくり、自然保全などのソフト事業に力を入れました。また、全国的な交通網が整備される中、1975 年(昭和 50 年)には山陽新幹線、1997 年(平成 9 年)には山陽自動車道、1999 年(平成 11 年)には西瀬戸自動車道(しまなみ海道)が開通し、福山市の商業・流通都市としての機能が強化され、広域的な中心地としての性格がより強くなりました。平成の大合併では、2003 年(平成 15 年)に内海町、新市町、2005 年(平成 17 年)に沼隈町、2006 年(平成 18 年)に神辺町と合併し、現在の福山市となり、2016 年(平成 28 年) 7 月 1 日には市制施行 100 周年を迎えました。

### 《参考文献》

『広島県の地名』-日本歴史地名大系 35- 平凡社 1982 年(昭和 57 年)

『今昔物語福山の歴史 上・下巻』 村上正名 1987 年(昭和 62 年)

『福山市史 原始から現代まで』 福山市 2017 年(平成 29 年)

## 2 福山市の沿革

福山市の行政的な変遷を明治の大合併(1889 年(明治 22 年)に市制・町村制施行)以降で見ると、1888 年(明治 21 年)時点で 140 を超える町村が存在していましたが、町村制施行により 72 町村とほぼ半数となりました。このとき、郡はそのまま引き継がれ、沼隈・<sup>ぬまくま</sup>深津・<sup>ふかつ</sup>

あしだ やすな ほんじ  
芦田・安那・品治の5郡でした。

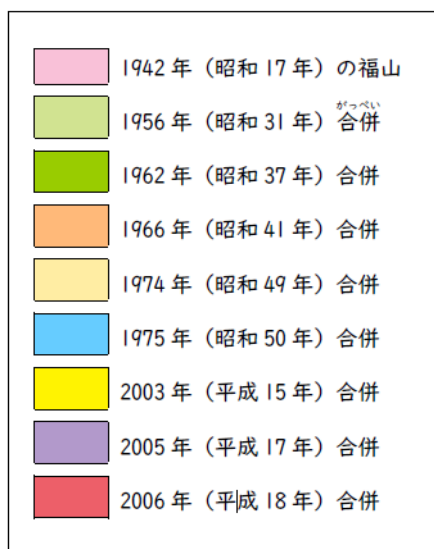
その後、深津郡福山町は、同野上村・三吉村を1913年(大正2年)に編入し、1916年(大正5年)に福山市となりました。また、明治から昭和時代戦前期にかけては、沼隈郡松永町、同今津町、芦品郡新市町、同駅家村、深安郡神辺町、沼隈郡鞆町、深安郡御幸村、同加法村、同竹尋村が誕生しました。

昭和の大合併(1953年(昭和28年)～1961年(昭和36年))では、松永市、深安郡深安町、同加茂町、同神辺町(合併)、芦品郡芦田町、同駅家町(合併)、同新市町(合併)、沼隈郡内海町、同沼隈町が誕生しました。1966年(昭和41年)には福山市は松永市と合併し、それ以前に福山市は沼隈郡水呑町(1947年(昭和22年)に町制施行)、同鞆町、深安郡深安町などと合併しています。

さらに、福山市は1974年(昭和49年)に芦品郡芦田町と、1975年(昭和50年)に深安郡加茂町及び芦品郡駅家町と合併しました。そして、平成の大合併(1999年(平成11年)～2010年(平成22年))により、2003年(平成15年)に芦品郡新市町及び沼隈郡内海町と、2005年(平成17年)に沼隈郡沼隈町と、2006年(平成18年)に深安郡神辺町と合併し、現在の福山市となり、これらの合併に伴い人口も増加しました。

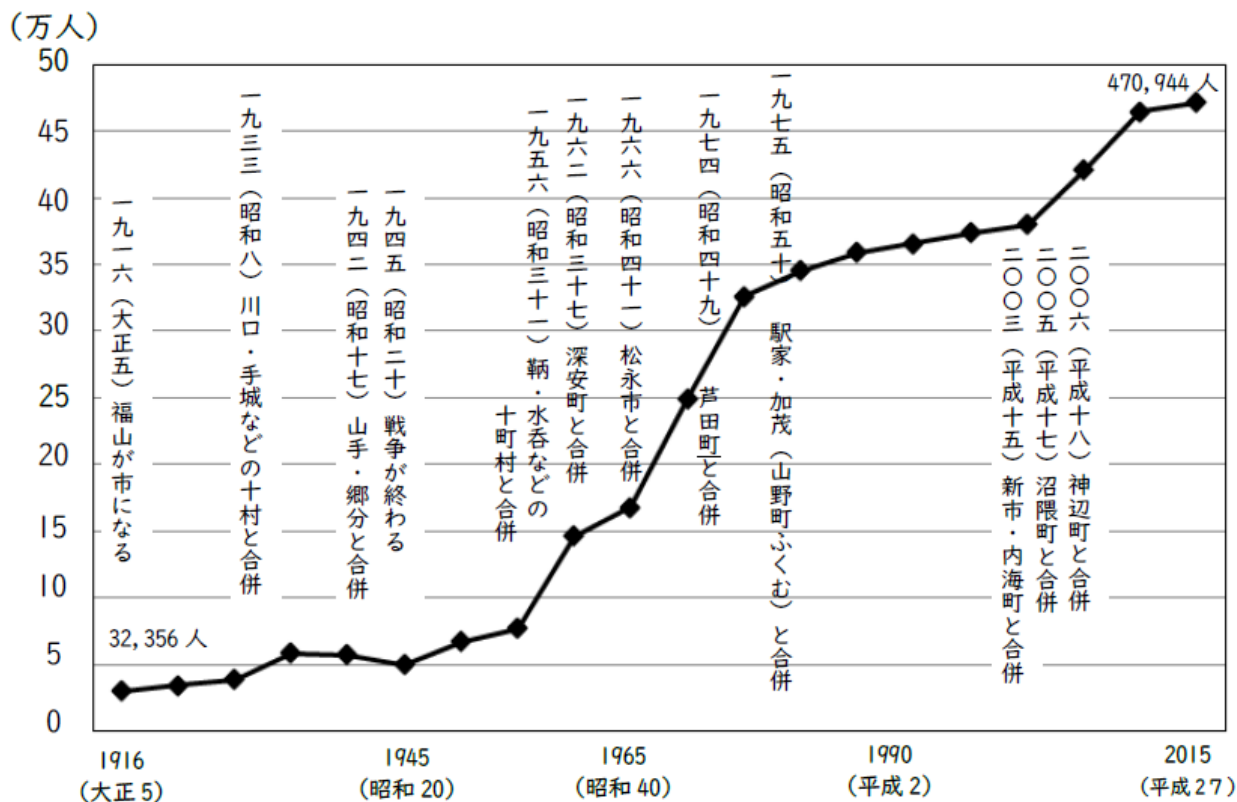


[illegible]



出典：大好き！福山 ふるさと学習（上巻）福山市教育委員会 2015年(平成27年)

図1-16 福山市の発展の移り変わり（1942年（昭和17年）以降）



出典：大好き！福山 ふるさと学習（上巻）福山市教育委員会 2015年(平成27年)

図1-17 福山市の人口の移り変わり（1916年（大正5年）以降）

### 3 福山市の災害史

#### (1) 水害

福山市を流れる芦田川は広島県東部地域最大の流域面積をもつ一級河川であり、三原市大和町蔵宗を水源として、世羅台地の山間部を通り抜け、府中市から福山市へかけての神辺平野・福山平野と呼ばれる広い沖積平野を形成しています。平野は芦田川とその支流である小河川や沖積作用によって形成され、平野を望む丘陵、小河川が流れる谷筋や自然堤防上に多くの遺跡が存在する県内有数の遺跡密集地となっていますが、発掘調査や文献記録などからは度々氾濫を起こし、洪水などの災害の発生によって人々の生活に影響を及ぼした痕跡や記録が確認されています。

発掘調査では土層の観察により、道上亀山遺跡での丘陵縁辺部で平安期の河川氾濫による厚い砂層の堆積がみられ、神辺平野でしばしば氾濫が起きていたことが確認されています。

芦田川及びその支流は氾濫を繰り返していましたが、近世になると人口堤防によって流路が固定され、中津原で大きく屈曲し、山手・本庄付近の蛇行も直線に付け替えられ、河の流れを制御することで治水が図られました。

しかし、堤防への水の浸透や漏水による決壊で洪水が発生するようになり、承応3年(1654年)には領内全体で1万石に及ぶ損亡をもたらし、享保6年(1721年)には中流域の芦田郡で堤防に水が浸透して崩壊した記録が残っています。また、堤防の決壊に加えて、土砂堆積により次第に川底が高くなり、水流が堤防を越えることも多くありました。このように江戸時代には度々洪水が起こっており、中でも文政9年(1826年)に発生した洪水は深津郡東部一帯が冠水、天保11年(1840年)に発生した洪水では、神辺平野が冠水し、堤防決壊約1,400箇所、山崩れ約5,300箇所、流出家屋約400軒、破損家屋約600軒、死者82人に及ぶなど、その被害が大規模なものでした。

近代以降では1919年(大正8年)に発生した水害で、死者・行方不明者17人、全壊・流出家屋149戸、床上浸水4,215戸と大きな被害をもたらしました。また、近年では2018年(平成30)年に発生した西日本豪雨において、死者3人、全壊・半壊家屋89件、床上浸水1,250件、床下浸水896件もの被害となり、福山市を含む西日本地域で大きな被害となりました。

こうした風水害への対策として、近世には水流を制御する「石<sup>いしはね</sup>刳」や護岸を強化する「打石」が連続的に施され、神辺平野の丘陵部では洪水による土砂流出を防ぐため砂留が数多く築かれました。近代以降は芦田川の流れに耐え得る堤防やダムの建設、河道整備(河床掘削・流路整備)などが継続的に行われています。

#### (2) 地震

福山市には現在までに高増山の南東から神辺平野を北東～南西方向に延びる長者ヶ原断層、沼隈半島東部の鞆断層、福山平野の北端を限る福山断層の3本の活断層が確認されています。

発掘調査では地震による液状化現象の痕跡を示す噴砂や亀裂が見つかっており、福山市内では神辺平野の御領遺跡において弥生時代の地層の下部から中世遺物包含層を貫く液状化跡とみられる砂脈がみつかっています。

記録として確かなのは、文禄5年(1596年)に発生した慶長大地震です。揺れの範囲は伊予から豊後・京都まで及び、三原で大きな被害となったことが記録されています(仏通禅寺住持記・報)。この地震により福山でも被害があったと考えられます。また、安政元年(1854年)11月4日から同月15日まで発生した地震では、深津郡役所を含む家屋の倒壊がみられま



した。<sup>すがなみのぶみちいちだいき</sup>「菅波信道一代記」には、「当国（備後国）福山城下内深津村人家いたみ多し、尤も古き家甚し」とその被害状況を伝えています。

福山市域では小規模な地震が繰り返し発生してきたと考えられますが、大規模な地震としては、近世では宝永の大地震（福山地域推定震度6弱）、安政の地震（福山地域推定震度6強）、近代以降では1944年（昭和19年）の東海南大地震、近年では2000年（平成12年）の鳥取西部大地震、2001年（平成13年）の芸予地震などが挙げられます。

### （3）高潮

福山市域では地震による津波は確認されていませんが、暴風に伴う高潮被害がしばしば発生しています。

鞆の浦では寛保4年(1744年)の暴風雨で当時まだ大波止が築堤されていなかったこともあり、港湾周辺の民家や寺院の石垣・雁木が甚大な被害を受けました。また、松永では元禄15年(1702年)に高潮で堤防が切れて田畑へ海水が侵入し、20.8haの作物が枯れる被害がでています。明治7年(1884年)には大海嘯<sup>だいかいしゅう</sup>が発生し、福山市街地にも海水が押し寄せ、新開地の耕地が全滅状態となるなど、大きな被害となりました。

現在では高潮対策として堤防や護岸が整備され、特に高潮被害が発生しやすい鞆の浦では沿岸部に起伏式ゲートなどが整備されています。

### （4）火災

近世になると町場が形成され、ひとたび火災が発生すると類焼して大きな災害となりました。そのため、城下町では周辺村々が防火動員の役負担を課せられていましたが、そのシステムでは対処しきれない大火に見舞われることがありました。

城下町では寛永17年(1640年)に福山城大手門前に所在していた神島町が焼失した火災をはじめ、大規模な火災から数十軒～200軒程度が消失する火災が1877年（明治10年）までしばしば発生しました。また、鞆町や神辺町などの他の町場でも大規模な火災が発生しており、近世は大きな火災を経験し続けた時代と言えます。

### （5）<sup>ききん</sup>飢饉・<sup>かんばつ</sup>旱魃

中世は恒常的に飢饉の時代だと言われますが、温暖となった近世においても飢饉はたびたび発生しています。

享保17年(1732年)には福山藩領10万石のうち半分以上が虫害で実らず、餓死者731人に及び、2万830人が飢えに苦しみました。『安那郡湯田村風土記』には「十年に六、七の割合で水患を、三、四の割合で旱魃を患った」と記されており、水害と旱魃が頻繁に発生していたことを物語っています。福山地域には芦田川を本流とする小規模な支流が流れており、これらの支流の多くは砂質の天井川であったため、雨が少し降らないだけでも干上がって旱魃となり、逆に雨が降れば川からあふれた水が田地に流入し、作物に影響を与えていました。

表 1-4 福山市の主な災害年表

| 年     |       | 月日                   | 種別 | 被害状況                                               |
|-------|-------|----------------------|----|----------------------------------------------------|
| 文禄 5  | 1596  |                      | 地震 | 慶長大地震。三原で被害の記録。福山でも被害があったと考えられる。                   |
| 元和 6  | 1620  | 5 月 28 日             | 水害 | 城下洪水。城壁一部破損。                                       |
| 寛永 17 | 1640  |                      | 火災 | 神島町が焼失。                                            |
| 承応 3  | 1654  |                      | 水害 | 洪水により領内全体で 1 万石に及ぶ被害。                              |
| 延宝元   | 1673  | 5 月 14 日             | 水害 | 沼隈郡で諸川が氾濫。田畑に大きな被害。                                |
| 貞享 4  | 1687  | 9 月 9 日              | 水害 | 大洪水発生。                                             |
| 元禄 15 | 1702  |                      | 高潮 | 松永で田畑 21 町歩の被害。                                    |
| 宝永 7  | 1707  | 10 月 4 日             | 地震 | 福山地域推定震度 6 弱。                                      |
| 享保 6  | 1721  |                      | 水害 | 中流域の芦田郡で堤防が決壊し、洪水が発生。                              |
| 享保 7  | 1722  | 3 月                  | 火災 | 城下火災で家屋 1,000 軒余焼失。                                |
| 享保 14 | 1729  | 8 月 19 日             | 高潮 | 鞆で高潮被害。                                            |
| 享保 17 | 1732  | 7 月                  | 飢饉 | うんか大発生で田畑損毛 5 万余石、餓死者約 700 人。                      |
| 享保 19 | 1734  | 2 月 4 日              | 火災 | 城下火災で家屋 1,000 軒余焼失。                                |
| 寛延 2  | 1749  | 10 月 17 日            | 火災 | 鞆の原町で家屋 244 軒焼失。                                   |
| 宝暦元   | 1751  | 8 月 5 日              | 火災 | 鞆の原町で家屋 150 軒焼失。                                   |
| 明和 8  | 1771  | 6 月 10 日             | 火災 | 新市村で家屋 269 軒焼失。                                    |
| 安永 8  | 1779  |                      | 火災 | 今津駅町場の過半に達する 80 軒が焼失。                              |
| 享和 2  | 1802  | 5 月 17～18 日          | 水害 | 草戸川出水 1 丈 2 尺。田畑損毛。                                |
| 文化 4  | 1807  | 2 月 18 日             | 火災 | 神辺で家屋 250 軒（建物 472 軒）焼失。                           |
| 文政 9  | 1826  |                      | 水害 | 洪水により深津郡東部一帯が冠水。                                   |
| 文政 11 | 1828  | 8 月                  | 水害 | 暴風雨・洪水で田畑損毛約 9 万石に及ぶ。                              |
| 天保 11 | 1840  | 6 月 5 日              | 水害 | 大洪水にて領内甚大な被害。                                      |
| 弘化 5  | 1848  |                      | 火災 | 田島で 40 軒焼失。                                        |
| 嘉永 6  | 1853  | 9 月                  | 飢饉 | うんか発生。損毛約 4 万石。                                    |
| 嘉永 7  | 1854  | 2 月 4～5 日            | 地震 | 大地震で領内に被害。                                         |
| 安政元   | 1854  | 11 月 4 日～15 日        | 地震 | 深津郡役所、深津村内の家屋の倒壊。                                  |
| 安政 2  | 1855  | 10 月 2 日             | 地震 | 福山地域推定震度 6 強。                                      |
| 明治 5  | 1872  | 3 月 14 日             | 地震 | 旧城下町で被害。                                           |
| 1884  | 明治 10 |                      | 高潮 | 福山町市街地へ海水が進入。新涯地の耕地全滅状態。                           |
| 1883  | 明治 16 | 7 月                  | 飢饉 | 旱魃のため深津・沼隈郡で作物の被害甚大。                               |
| 1884  | 明治 17 | 8 月 25 日             | 高潮 | 台風による高潮で沿岸部の被害甚大。                                  |
| 1919  | 大正 8  |                      | 水害 | 大水害。死者・行方不明者 17 人など。                               |
| 1944  | 昭和 19 | 12 月 7 日             | 地震 | 被害状況不明。                                            |
| 1946  | 昭和 21 | 12 月 21 日            | 地震 | 沼隈郡で家屋倒壊や浸水被害。                                     |
| 2000  | 平成 12 | 10 月 6 日             | 地震 | 鳥取県西部地震。震度 5 弱。                                    |
| 2001  | 平成 13 | 3 月 24 日             | 地震 | 芸予地震。震度 5 強。                                       |
| 2018  | 平成 30 | 6 月 28 日～<br>7 月 8 日 | 水害 | 西日本豪雨。死者 3 人、全壊・半壊家屋 89 件、床上浸水 1,250 件、床下浸水 896 件。 |